



愛光NEWS

2025年8月

2025（令和7）年10月15日発行

（編集）愛光本部

（TEL）043-484-6391

（HP）<https://www.rc-aikoh.or.jp/>

連日の暑さが続いた8月でしたが、各事業所では体調に気を配りながら、利用者の皆さまが安心して過ごせるよう工夫を凝らした日々を送りました。外出が難しい日もありましたが、室内でのレクリエーションや制作活動が盛んに行われ、夏らしい笑顔がたくさん見られました。

また、季節の行事として夏祭りや納涼会なども実施され、地域の方々やご家族との交流を通して、にぎやかで温かい時間が広がりました。

□事業経過など（2025.8.1～）

5	火	業務執行会議
6	水	看取りケア研修
8	金	5S研修
7	土	理事会
13	水	コ・ヒューマントレーニング
12	木	中途採用者交流会
16	土	めいわカラオケ大会
18	月	佐倉圏域実績会議
20	水	地域食堂ともいき
21	木	メンター情報交換会/採用後1年面接
25	月	個人情報保護研修
27	水	障害者支援事業部実績会議/地域福祉事業部実績会議/財務プロジェクト
28	木	経営戦略会議/高齢者福祉事業部実績会議
30	土	Aikohフォーラム 将来への備え～相続で困らない・困らせないために～

■月報から

□ 実習生の受け入れ（本部）

8月 は例年、多くの実習生を迎える月であり、今年も法人全体で12名の方々を受け入れることができた。実習生の受け入れは、社会貢献活動として大切なことであるが、それだけではなく、将来、法人を支えてくれるかもしれない人材との出会い、未来への大切な「投資」でもある。学生にとっては、実際の現場を経験できる貴重な学びの機会あり、私たちににとっては未来の仲間と出会う大切な場となっている。毎年、実習をきっかけに「ここで働きたい！」と採用試験へ応募してくれる学生がいることは、大変喜ばしいことである。お忙しい業務のなか、実習生の指導に真摯に向き合ってくださいました各事業所の職員の皆さんに深く感謝したい。

（総務課長 宮本 典昭）

□ 5 S活動（ルミエール）

7月から本格的に5S活動がはじまった。「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の略であるが、リーダーとチームメンバーは業務の合間に時間を見つけて施設内の整理に取り組んでいる。施設内の整理もできる範囲で行い、見た目でも変化がわかるようになってきたところで次の整頓の時期に入っている。現状の課題として、整頓のルールができつつあるが施設全体を巻き込んで周知していくこと、この5S活動の先にまだ見えない何かがあり最終的にどうなるかがわからない不安もあるが、チームメンバーには前向きな気持ちで取り組んでもらい施設全体に広まるようスタッフ会議の場で報告して理解を得ていきたい。

（ルミエール課長 原 宏之）

□ 夏の思い出（めいわ）

世間は最大で9連休のお盆休み。あまりにも長い休みはみなさんにとっても生活リズムが乱れる事にもなります。夏休みは5日間に設定し楽しいイベント目白押しでした。初めて企画した「スタンプラリー大会」、ホットドック片手に「映画会」、美味しい調理（餃子・シュウマイ・クレープ）で「女子会」、大好きなファストフードで「男子会」、光和会にも負けじと盛り上がった「カラオケ大会」。最後は毎年恒例の「納涼祭」。「ワッショイ、ワッショイ」のかけ声と皆さんの笑顔があふれる1日でした。普段の作業とはまた違う表情が見られて、スタッフにとってもとても楽しい時間になりました。

（めいわ 課長 日野 史生）

□ 各作業班 夏の進捗状況（根郷通所センター）

【陶芸班】成田の“ファームランド”へ外出に行ってきました。そこでは、初夏を味わうブルーベリー狩りをしました。皆さん初めての経験だったので最初は戸惑っている様子でしたが、慣れてくると自分自身で取りもくもくと食べていました。とても暑い一日でしたが、カキ氷でクールダウンしたり、リフレッシュした時間を過ごすことができました。新しい陶芸班になり心機一転頑！張って作品を作っていきます。

【木工班】新メンバーになり親睦を深めるお楽しみ会を行いました。毎日、厳しい暑さが続いているので、アイスを食べクールダウンしました。来月は、久しぶりに外出もしたいなーと企画中です。また、木工雑貨の新作も制作中です。1つ目は、メモスタンド。2つ目は、輪切りの真ん中に大きな穴を開けた一輪挿しです。毎年、夏場は木工商

品の売れ行きが低迷してしまうので、新作で持ち返せるように頑張ります！

【受注班】 銀のさら、千葉紙工の作業に日々取り組んでいます。当月は千葉紙工から委託しているゴミ袋の梱包作業が、今までで一番の売上になりました。最初は難しかった作業ですが、少しずつ慣れていき毎日みんなで頑張った成果が売上にでてとても嬉しいです。過去最高の売上達成記念と、新しい職員も加わった歓迎会を兼ねて、かき氷作りをしました。
(根郷通所センター 各リーダー)

□ 慌ただしかった8月（山王の家）

初旬はコロナ罹患の利用者が復帰するまで緊張感がある日が続き、それが終息したらお盆の夏休みが始まった。夏休みがない通所事業所は普段通りの活動。気が付けば夏らしい活動は出来ずに月末を迎えた。28日の職員会議で感染症罹患時の対応について意見を出し合いまとめた。実働時は一人で支援にあたる事が多く、他職員がどのように動いているのか分からない。職歴の長い職員が集まっているので大きく逸れる事はないが、その都度情報を入れながら山王の家に合ったマニュアルを更新していく。世話人にも次回の世話人会議の時に議題にあげて意見をもらうつもりでいる。

(山王の家 岡本 綾子)

□ 仕出し弁当が急遽休みにになりました。(佐倉市よもぎの園)

よもぎの園の昼ご飯は自宅から弁当を持ってくる方もいれば、途中で買ってくる方もいる。それ以外の方はよもぎで弁当を注文しているのだが、いつも注文をしている仕出し弁当屋から8月の最終週に突然3週間ほど営業を休むとの連絡が入った。現在、弁当を注文している利用者は20数名おり、多い時で28食程となる（登録者は40名なので半数以上）。次の日から注文できなくなる状況となり、職員で手分けしていくつかの仕出し弁当屋に連絡をしたが、値段や配送ルート外と言われ、なかなか代わりの弁当屋を見つけることができなかった。そのため、この間は職員がスーパーなどで弁当を買って何とかしのいできた。そんななか、ルート外と断られた業者から別の業者を紹介してもらうことができ、藁にも縋る思いで連絡をすると当初、配送ルート外と言われてしまったが、配送ルートを考えてくれるとの前向きな返事をもらうことができた。結果的に、昼休みギリギリの時間になりそうだがルートに入れられると、OKをもらうことができ、事なきを得ることができた。※今後はこの業者に弁当をお願いすることになった。ご家族の高齢化や家庭環境によっては自宅で昼ご飯を用意できないこともある。通所先で弁当注文できることは通所先を選ぶ際のポイントになることもある(実績あり)。これからも安定して弁当を注文できる環境は維持していきたいと改めて感じた出来事であった。

(よもぎの園 近藤 真一)

□ 8/30(土) Aikohフォーラム 将来への備え(かけはし)

～相続で困らない・困らせない為に～

今回のテーマが相続ということで、弁護士である吉野理事に登壇していただき、今までにアシスト・包括で関わりのある事例をあげながら講演会を実施した。当日参加者は45名であり、将来への備えや終活について関心が高いことが伺えた。最後のアンケートでは多くの方が「参加して良かった」「後見人制度についてより深く知りたい」などの記入が多く、今後誰しも迎える将来について考えるきっかけに繋がったのであればよいと思う。

□ カフェスペース貸事業開始します（ワークショップかぶらぎ）

～利用者と共に変化してきた、かぶらぎの地域交流に関する意識～

現在かぶらぎが利用者の休憩やミーティングで使用しているカフェは、設計時「地域交流スペース」という名称で作られた。開所当初、利用者と地域への場所の開放をどう受け止めるか話し合い、まずは利用者が安心して過ごせる場を整えようという結論となった。それから、少しずつ利用者向けのカフェを始めてみたり、パントリー事業で来客対応を行うなかで利用者の意識や行動も徐々に変化している。試験的に城の辺社協の皆さんに利用していただいた際の振り返りでは、利用者からは外部の人に対する緊張という話題は既に超えて、飲食の提供スピードやタイミング、スペースの衛生に関する話題が出るようになってきている。かねてより準備してきたが、このタイミングで正式に「地域交流スペース」を改めてその名の通り、地域の方も利用できる場所として運用を行いたい。利用者の休憩スペースとの共存するための利用規約を整え、スペース利用者からは飲食代金を含むスペース利用料をいただき就労事業の一部とする。事業名称は『なごみや』とした。
(ワークショップかぶらぎ 宮部 和樹)

□ 新たな挑戦意欲(ジョーの家)

半月のモニタリングを実施している際、Hさんと4月の課題を振り返る中で、本人から「ジョーの家は、一人暮らしの訓練である。先はアパート暮らしをしたい」と希望があり、グループホームから出て、さらなる挑戦をしようとしていることが伺えた。職員からは、アパート暮らしに向けて、「自分でできることを増やすこと」「職員以外の方にも相談できること」を生活課題とし達成していくことで、目標に近づくことができるのではないかと振り返りをおこなった。このHさんの意欲を、職員全員でサポートし、一緒に目標を達成できるように取り組み、安心して挑戦できる環境を整え、地域社会の中で自立した生活を送るための支援を準備していきたい。
(ジョーの家 高橋 健)

□ Aikoh フォーラム 2025

8/30(土)に毎年恒例のAIKOH フォーラムが開催された。講師は、弁護士で法人理事でもある吉野智氏にお願いした。今回のテーマは「将来への備え～相続で困らない・困らせないために～」であった。今回はC-HT2 期生である職員がはちす苑から加わり、南部包括、アシスト、かけはしから担当職員を選出し準備にあたった。昨年の反省を振り返るところから始まり、担当職員での打ち合わせと、講師を含めた打ち合わせを何度か行った。流れとしては講師が講話を行い、次に高齢の事例と障害の事例を南部包括とアシストで出すシンポジウム形式とした。昨年度の反省から、講師の話が終わったら質問タイムを取る等、参加される方が理解しやすい進行に配慮をした。また打ち合わせの段階から、講義内容(項目の量)、資料の見やすさも議論し、参加者の多くを占める70～80代が受け止めやすい内容・量を考えた。アンケートはおおむね好評であった。反省会では、次年度に向けたテーマや工夫等の話もあり、その内容は講師である吉野氏にも共有を図った。総合相談センターではなくなったが、南部包括とアシストは協働するケースが多い。アシストとかけはしは、まさに一体として相談事業を担っている。南部包括とケアプランはちす苑もケアマネ不足という中で連携は必須である。自事業所だけで完結しない事業を行う意味は、単にフォーラムを開催するだけでなく、法人内の事業所とどう一緒に事業を行うのか、顔が見える関係が築けているのか等々を振り返る機会にもな

る。担当した職員だけでなく、関わる職員が皆、様々な側面との繋がりを意識し、今後もフォーラムに取り組んで欲しいと感じた。“連携”は一朝一夕にはできあがらない。日常のちょっとした積み重ねや、イベントや事業を通して一体感を得ることも必要である。法人の相談事業を担う職員として、繋がる機会となれてほしい。

(佐倉圏域事業部長 近藤 美貴)

□ 看取りケア研修「介護の場で看取る」（はちす苑）

8/6 看取りケア研修を阿部美樹子が講師となり行わせていただいた。「死とどう向きあうか」「看取り時のケア」「他職種や家族と連携する」といった看取りの基本的な内容を伝えさせていただいた。人の最期は1度きりの人生の大きなイベントである。そのイベントに関われる事は、私達職員にとり非常に貴重な体験である。経験の少ない職員は「怖い」と思う気持ちが先立つかもしれない。利用者から沢山学ばせていただき、真摯に一つ一つの命と向き合っていて欲しい。

(はちす苑主任 阿部 美紀子)

□ 地域ケア圏域推進会議（佐倉市南部地域包括支援センター）

～春路地区～

26日（火）、今年度1回目の地域ケア圏域推進会議を開催し、自治会長や民生委員、自主防災会、高齢者クラブの代表等地域で活動されている方々と地域内の訪問看護事業所や薬局、社会福祉協議会などの専門職に参加していただいた。今回は春路地区を対象とし、「災害時に備えて、地域とのつながりについて考える」をテーマに行った。「近隣に親しい知人はおらず、地域内の活動には参加していない」といった事例から、災害時に備えて平常時からつながるためには何が必要かどうか検討を行った。ワークショップでは、地域住民には「地域であつたらいいな」について、専門職には「専門職としてできること・地域とどのように繋がれたらよいか」について考えてもらい、意見交換を行った。災害時に備えて地域住民・専門職それぞれの立場で何が出来るか意見交換を行うことで、お互いの考え方や思いを共有することができた。地域住民からは「助けを求めている要支援者はいるが、自分たちだけで対応はできない」という切実な思いが聞かれた。専門職からは「一緒に訪問することで、専門職としても状況把握ができる」との提案があった。包括としては、今回の会議を通して「地域と専門職を繋げること」も包括の役割であると感じた。今回挙げた地域のニーズを佐倉市とも共有し、地域と共に引き続き考えていきたいと思う。

(佐倉市南部包括支援センター 森 由美子)

□ 「WAKUWAKU なんぶサマーフェスタ」開催！（佐倉市南部児童センター）

～ようこそ南部ハワイアンセンターへ～

今年初めての企画として「サマーフェスタ」を開催した。対象は乳幼児親子から18歳まで。幅広い年齢の子どもたちを対象とし、会場は南国のような雰囲気にも包まれた。あそびのフェスタでは、大きな魚釣りコーナーが大人気！マグネットの釣竿を使い、まるで磯釣りをしているかのような真剣な表情で魚を狙う小学生の姿が印象的だった。ワークショップでは、小学生ボランティアのスマイルクラブが活躍した。カードホルダー作りやアクセサリショップを展開し、「とってもお客さんがたくさん来たよ」と満足げに話す姿が見られた。シューティングゲームでは、的が倒れず「もう一回！」と悔しがる子。大当たりで喜ぶ子。冷たいかき氷も大盛況で、暑さを忘れるひと時となった。会場

には他にもたくさんの遊びが詰め込まれており、すべてを書ききれないほどの充実ぶり。そして、遊びの後は、ショータイム。ボランティアによるフラダンスとウクレレのショーが行われ、自然とステージ前に人が集まり、静かに見入る姿が印象的だった。お楽しみ抽選会では歓声が上がり、フィナーレの「ジャンボリミッキー」では、子どもも大人も一斉にダンスを踊り、盛り上がりは最高潮に達した。今回のフェスタは、企画・準備から手探りで進めてきた。当日の高校生ボランティア13 人の協力も成功を導く大きな力となった。スタッフの力、協力してくれた皆様、そして何より遊びを全力で楽しんでもくれた子どもたちの力が大きかった。来年もさらに楽しい夏を届けられるよう、取り組んでいきたい。

(佐倉市南部児童センター 吉田 知加子)

□ 大興奮！！

今月は『スライム作り』『プラ板工作』『バスボム作り』と、室内でじっくり取り組む行事だけでなく、児童が計画して行う『お楽しみ会』や『こわいおはなし会』なども行い盛りだくさんな1 ヶ月となった。お楽しみ会は2 年生が中心となってオリジナルのゲームを考え盛り上がり、ゲームに負けて泣き出す児童が居るほど夢中になっていた。こわいおはなし会は1 年生が紙芝居の読み聞かせをしてくれた。紙芝居は怖さが伝わるように感情を込めながら読む練習を何日も前から行い、途中声が枯れてしまうハプニングもありながらもみんなが聞き入っており、夏ならではの『涼』を体験することができた。児童が楽しめるように…飽きないように…と、大人があれこれと考えた行事も良いが、自分たちが楽しめるようにと作り上げた行事の達成感は格別の様で興奮冷めやらぬ時間となった。

(学童保育所 平野 美幸)

□ サロンド・ともいきでボッチャのイベント

8 月1 日、恒例の事業サロンド・ともいきは、和室で「ボッチャ」を開催した。今までは、広い研修室で行っていたが、他の教室が入っていたのと、使うボールも柔らかいので、思い切って和室で開催。ボッチャは、パラリンピックでも放映されていた通り、近年人気の出てきた話題のスポーツであろう。ボッチャのルールは、赤いボールのチームと、青いボールのチームに分かれて、的となる白いボールに向かってボールを交互に投げ、最終の時点で、白いボールの近くに多く置いた方が勝ち。どこかカーリングにも似ているルールだと思う。今回のボッチャは、3 人対3 人のゲームを数回行った。ボールも手に持ちやすく適度な重みもあって、軽く投げるだけでまっすぐ転がるため、比較的容易に相手のボールに当てやすい。高齢者には適度な運動の心地良さがある様だ。普段と違う運動に、参加者の笑顔が見られ心身ともにリフレッシュすることができたと思う。

(佐倉市南部地域福祉センター 青山 秀人)